

家庭ごみ袋の有料化について

質問 そもそもごみ処理は、自治体本来の仕事として、市民が納めた税金の中で行ってきたのであり、収益を目指すものでないことは明白である。したがって、収益上赤字にならない線を割り出し、それ以上の部分については、ごみ袋の価格を引き下げるべきである。

また、収益の取り扱いについては、市の要綱に規定のある、ごみ減量等市民協議会を開いて協議すべきであると思うが、市はどう考えるか。

答弁…環境経済部長

ごみ袋の価格の引き下げについては、ごみの有料化が、ごみの減量化と市民負担の公平化のためであることを踏まえ、将来、ごみの減量化が定着し、環境対策等が整った場合には、価格について検討することも考えられますが、当面は、価格の変更は考えていません。今後とも、ごみの減量化を推進するために、ごみ集積施設設置費用補助金制度及び生ごみ処理機購入助成金制度の利用促進を図るため、普及PRに努めていきます。

また、新たな助成制度についても、先進地の状況を調査する中で、他にどのような助成制度があるのか、また、それがごみの減量化につながるのかということも含めて、調査・研究していきたいと考えています。

ごみ減量等市民協議会については、早い時期に検討し、地区衛生組織など、いろいろなご意見をいただく中で、さらなるごみの減量化に努めていきたいと思えます。

小学校の統合に伴う通学路の安全について

質問 平成22年4月から、中央小学校、西部小学校及び沙弥小学校が統合し、坂出小学校となる。新校舎が現在の西部小学校に建設されるまでの間、児童は中央小学校に通学することになるが、通学路が変更となったため、道路の施設や設備等に問題点が出てきている。

児童の通学時の安全確保について、市はどのように考えているのか。

答弁…教育部長

坂出小学校の通学路の安全確保については、関係小学校及び関係校区の教職員、保護者、地域の代表で構成する統合準備委員会において、種々検討していただいています。

新校舎建設期間の2年間は、現在の西部小学校の児童が中央小学校に通うことになるため、通学時間帯の道路の通行量や混雑の状況を確認するほか、危険箇所や横断歩道設置の必要性、また、信号機の一定方向への優先信号の必要性など、児童の通学状況に合わせた通学路の安全について、その対応策が検討されたところです。

問題点のある箇所については、先般、西部校区連合自治会長、坂出交通安全協会西部支部代表、西部小学校長及び西部小学校PTA会長の連名で、環境交通課長に要望書が提出されています。

慣れない新しい通学路での交通事故を発生させないためにも、関係課と連携しながら、坂出警察署とも協議を行い、通学路の安全確保に努めていきたいと考えています。

赤ちゃんの駅を設置について

質問 赤ちゃんの駅とは、乳幼児を抱える保護者を支援するため、市役所や出張所、公立保育所などの公共施設や、事業所、店舗等の一角に、オムツ替えや授乳等ができるスペースを確保してもらい、市が「赤ちゃんの駅」として認定するものである。子育て支援の一環として、本市でも実施しはどうか。

答弁…市民部長

赤ちゃんの駅については、子育て家庭を支援する取り組みの一環として、平成18年に東京都の板橋区が事業を開始して以来、子育て支援はもちろん、地域ぐるみで子育てを応援する機運を盛り上げていく取り組みとして注目を集め、現在では全国多くの自治体にも広がりを見せています。

県においても、四国新聞社との共同により、「子育て応援団」という子育て応援コミュニケーションサイトを立ち上げ、その中で「みんな子育て応援団」を募集しており、赤ちゃんの駅と同趣旨の事業を展開しています。

現在、坂出市では20程度の店舗が加盟し、サービスの提供を行っているようですが、市の公共施設の登録はありません。今後、この事業を活用し、まずは保育所など、すぐに対応が可能な施設から登録を行い、事業を実施するとともに、市民のニーズも十分に把握する中で、市の関係部局や関係行政機関、そして市内の企業や商店などへのPRを行い、地域ぐるみで子育てを応援する機運を盛り上げていきたいと考えています。